

## 平成 29 年度「ALS 基金」研究奨励金交付対象の決定 ～研究奨励金の概要、研究テーマ、交付金額および交付者～

研究助成部

### 1 「ALS 基金」研究奨励金の概要

ALS の原因究明と治療法の確立、療養生活の改善は、患者・家族の方々の大きな願いであり、当協会の目的でもあります。そのため、広く社会に呼びかけ、募金活動を行い平成 4 年度に「ALS 基金」（当初は「ジャルサ基金」）を設立しました。これを原資にして「ALS 基金」研究奨励金を平成 7 年度に創設し、ALS の原因究明や治療法に関する研究、福祉機器開発に関する研究、看護・介護向上、療養環境の整備・改善に関する研究などに対する助成を開始しました。平成 28 年度までに約 8,088 万円（112 件）、内訳では原因・治療研究 5,651 万円（58 件）、福祉・看護・介護 2,437 万円（54 件）を交付しています。

今回の研究奨励金の交付決定にあたっては、以下の先生方に選考をお願いしています。

< 選考委員（50 音順） >

石松 隆和	長崎大学 地方創生推進本部 COC+推進コーディネーター・工学博士
糸山 泰人	国際医療福祉大学福岡キャンパス 副学長 九州地区生涯教育センター長
岡本 幸市	公益財団法人 老年病研究所 所長
木村 格	社会福祉法人 函館厚生院ななえ新病院
葛原 茂樹	鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科 特任教授
近藤 清彦	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 脳卒中・脳神経センター 顧問
佐々木 彰一	あがの市民病院 神経内科 部長
祖父江 元	名古屋大学大学院医学系研究科 特任教授
田中 栄一	（独立行政法人）国立病院機構八雲病院 作業療法士
中板 育美	（公益社団法人）日本看護協会 常任理事
林 秀明	東京都立神経病院 元院長

### 2 平成 29 年度応募の概要

公募を平成 28 年 12 月から平成 29 年 1 月にかけて行いました。応募の概要は以下です。

応募件数：18 件（分野Ⅰ：13 件、分野Ⅱ：5 件）

（内訳）

1. ALS の原因究明に関する研究 9 件
2. ALS の治療法に関する研究 4 件
3. ALS 患者の福祉機器開発に関する研究 1 件
4. ALS 患者の看護・介護向上、療養環境の整備・改善に関する研究 4 件

### 3 平成 29 年度の選考結果

選考の結果は以下のようになりました。(氏名五十音順)

#### 分野 I 原因究明および治療法に関する研究 (3 件、300 万円)

- ① 「RNA アプタマーを用いた分子標的医薬による孤発性 ALS の治療法の開発」  
東京大学大学院医学系研究科郭研究室・特任研究員  
あかまつ めぐみ  
赤松 恵氏 100 万円
- ② 「ALS 病態誘導人工遺伝子による人工 ALS モデルマウス樹立と病態解明」  
慶應義塾大学医学部 神経内科 専任講師  
いとう だいすけ  
伊東 大介氏 100 万円
- ③ 「運動神経特異的に TDP-43 を蓄積する ALS モデルマウスの創出と治療薬開発」  
公益財団法人東京都医学総合研究所 認知症・高次脳機能研究分野  
認知症プロジェクト・主席研究員  
ほそかわ まさと  
細川 雅人氏 100 万円

#### 分野 II 福祉機器の開発および看護・介護向上等に関する研究

該当なし

### 4 その他

昨年度は、福祉機器の開発および看護・介護向上等に関する分野の研究で 8 件の応募があり、そのうちの 2 件に交付しましたが、今回は該当なしの結果となりました。

原因究明・治療の分野と同様に、福祉機器の開発および看護・介護向上の分野における研究活動は重要ですので、この分野での募集や選考のあり方の見直しも含めて再検討を行い、引続きこの分野の研究に寄与できるように図っていきたいと思います。

以上